

## 与那原町制施行60周年記念

### 「綱がる与那原ちゃんぶる一市」開催

3月27日(土)・28日(日)は与那原町のえびす通り(商店街)へお越し下さい。

与那原赤瓦、与那原そば、与那原ひじき、与那原漆喰シーサー、与那原シーサー、与那原オリジナルさんしん、与那原野菜、与那原ケイビン焼、ぬーやるバーガー・ゴーヤーバーガー、琉球らー油・すくがらす、大福パン、手芸アクセサリー体験、携帯電話操作説明、木造住宅接合金具展示、血圧測定等いろいろな出展が予定されています。また、ステージを設けて、子供たちの吹奏楽演奏、子供たちのダンス、青年会エイサー演舞や某有名音楽バンド等を予定しています。多くの方々のご来場をお待ちしております。



当日は、紅型柄のさんしんを出展販売  
ぬーやるバーガー・ゴーヤーバーガーのジェフ



首里城の赤瓦は  
与那原の赤瓦です。

### 「与那原の今と新しい未来を体感しよう」

1. 目的/本町の小売・サービス業は、近隣市町村への大型店の進出や新たな商業集積の出現等により、地元購買力が低下している。また、えびす通りの拡幅工事により地元住民や周辺店舗が生活面・営業面において不便を生じる影響が続いています。そこで、改めて与那原の良さを見つめなおす機会と与那原の中心市街地である商店街の新たな出発の機会を設け、地元の特産品に限らず、広く商工業、観光関連、農業、漁業の販売・展示・サービスの提供を行う事により、与那原産の良さを町民並びに県民に再認識して頂き、継続して愛用頂くことで地元購買力の向上を図ります。更には、与那原町の協力と支援のもと、関係機関・団体と連携しながら、町制施行60周年の節目とえびす通りの開通を記念して、「綱がる与那原ちゃんぶる一市」を実施し与那原のPRと地域経済活性化に資することを目的として開催致します。
2. 主催/与那原町商工会(綱がる与那原ちゃんぶる一市実行委員会)
3. 後援/与那原町、与那原町議会、各区自治会、沖縄タイムス社、琉球新報社
4. 開催期間/平成22年3月27日(土)～3月28日(日)(2日間)  
土曜日 午後2時～午後8時 日曜日 正午～午後7時
5. 開催場所/えびす通り(道路周辺に特設会場を設けます。)
6. 問い合わせ先/与那原町商工会  
<https://www.shokokai.or.jp/47/4734810000/index.htm>  
電話：098-945-351

## 沖縄三大桜祭りスペシャル企画

「名護市」 沖縄初 沖縄B級グルメフェスタ

期間：平成22年1月23日(土)～29日(金)7日間

会場：名護漁港内特設会場

内容：沖縄初のB級グルメの祭典！沖縄のB級グルメはもちろん、北海道からジンギスカンと三重県からトンテキも出店。「てびち唐揚げ」「おきなわんじえらーと」「沖縄おでん」「琉球焼き」「スパムアボカ丼」「沖縄そば」「中味汁」「天ぷら」「ヤンバルてっぽうネギメシ」「沖縄風ちゃんぽん」「ジンギスカン」「トンテキ串」



沖縄B級グルメフェスタ会場風景

「今帰仁村」 宝探しゲーム

期間：平成22年1月23日(土)～31日(日)9日間

会場：今帰仁城跡、今帰仁城跡周辺

内容：世界遺産今帰仁城跡や城下町の史跡に触れながら宝探しに参加出来る！見事宝箱を発見し、そこに書かれたキーワードを報告書に報告すれば、抽選で豪華賞品があたる。

「本部町」 本部八重岳桜大明神&桜茶屋

期間：平成22年1月23日(土)～31日(日)

会場：八重岳山頂広場

内容：日本一早い桜に願をかけよう！八重岳山頂広場に「桜大明神」を設置。さくら茶屋では桜絵馬をはじめとした、桜祭りグッズを販売。



第48回名護さくら祭  
オープニングセレモニー



名護市商工会主管の仮装行列

つ分ぶ続年ら状も内  
た日りのき七れ態では  
だ食の半月にで見た最



15日の部分日食  
沖縄産業支援センターより撮影/撮影者 斉藤慎也氏

## 日食・二年連続観測

一月十五日日没時、晴天の夕焼け空に三日月ように欠けた太陽が沖縄本島で観測された。この日食は西日本各地で観測されたが、県内では最も欠けた状態で見られた。昨年七月に続き、今年も部分日食が観測された。

## 島一丸で観光振興を/久米島町 総決起大会に300人 久米島商工会

久米島町を訪れる観光客の減少傾向に歯止めをかけようと、「久米島観光危機突破総決起大会」(同実行委員会主催、実行委員長・平良朝幸町長)が6日、同町比嘉のイーフ情報プラザで開かれた。この種の大会は初めて。役場や町商工会、観光業など町内関係者に加え、沖縄観光コンベンションビューローの平良哲会長はじめ町内外から約300人(主催者発表)が参加した。会場では登壇者7人が発言し、現状打破に向けた取り組みの強化などを訴えた。「みんなで築こう久米島観光」とシュプレヒコールを上げた。

平良町長は「われわれ一人一人が島の良さをよく知り、島を訪れる人の目線で物事を考えれば、きっと変化が訪れる」と呼び掛けた。温浴施設「パーデハウス久米島」の平田勝英総支配人は、「本島より厳しい条件にあるが、島一丸となって取り組もう」と強調した。実行委員会によると、観光入域数は2008年に9万5千人を超えて増加傾向にあったが、09年に入り減少傾向に転じ、前年比で10%ほど落ち込んでいるという。

大会後、平良町長は「多くの町民に観光への関心を持ってもらったと思う。大会を機に、観光客の立場からの取り組みが実践できるようにしたい」と話した。



久米島観光発展に向けてシュプレヒコールを上げる  
湖城麻吉久米島商工会長(右から2番目)